

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100691		
法人名	社会福祉法人 あすなろ会		
事業所名	グループホーム高草あすなろ		
所在地	鳥取市大柄330		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町村受理日	平成23年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">www.wam.go.jp</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164		
訪問調査日	平成23年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が利用者の家族(本物にはなれないが、それに近い)になれるようケアにあたっている。(一緒に楽しんだり、悲しんだり)また、センターシートを活用しながら、利用者の方が、生き生きと生活できるように、職員一人ひとりが心がけながらケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の方が常に明るく、朗らかで、全体の雰囲気がとても和やかなものとなっている。また、職員が順番に一週間の目標を立て、全員がその目標に向かって行動し、検証するという「ふり返りノート」を作り、よりよいサービスが提供できるような取り組みを自主的に行なっている。家族からの要望もある終末医療についても、関係機関と連携を図りながら、研修を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんが主役となるように目標(理念)に沿って、実践している。	理念は事務所に掲げてあり、職員全員が常に意識を持っている。理念に添った、利用者の立場に立った「黒子としてのサービス」に努め、家庭的な温かい雰囲気づくりを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中に畑があり、その行き来や、散歩中などに、挨拶や会話をしている。	長年続けてきた地域の中での畑作りが定着し、近隣住民の方たちとの交流が増えてきている。地域の公民館祭へ参加したり、作品を出したりするなど、継続したつきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や新聞、地域の方との交流により少しずつ理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子を分かりやすく写真を見ながら説明し、委員さんより、評価やアドバイスをいただいている。	運営推進会議の委員は、役職にこだわらず、ある程度の期間は継続してほしい。そのため、大変活発な会議を行うことができる。また、食事を交えての会議を開催するなど、話しやすくなる工夫もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて取り組みを報告してアドバイスをいただき、協力を得ている。また、必要に応じて、相談等持ちかけている。	運営推進会議に出席してもらい、情報の交換を行っている。また必要に応じて相談に乗ってもらうなどの協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が、身体拘束について理解している。また、勉強会を開いて再認識した。	日中の玄関の施錠はしていないので、利用者は自由に出入りしており、出て行くときは、さりげなく職員がついていくなどの支援を行っている。職員への研修も行い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で、改めて学び理解を深めた。また、擦り傷や圧迫痕等から、ケアの在り方等検討した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、アドバイスできるように勉強会をおこなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は、時間をかけて家人に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族カンファレンス、面会時等、日頃から、意見や要望を聞き反映している。	アンケートを実施し、忌憚なく意見が言える環境を整えている。また面会時には積極的に話を聞くように努めたり、家族会を実施し、意見や要望等を直接聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、意見を聞きアドバイス等してくれる。	管理者は常に職員の様子に注意を払い、意見等を言いやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を把握している。また、面談もあり、じっくり意見をきいてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会が確保できている。また、質の向上に向けてアドバイスをしてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとネットワークの会や相互研修をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動などから、必要な環境作り、関わりを行い、信頼関係作りをしている。時には何度か面会したり、ショートステイを利用してもらったこともあった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に自宅に訪問して、家族の要望や求めている事等を聞き、どのような対応にすべきか話あっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーや他事業所の意見も参考にしながら検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんと職員が家族のように一緒に暮らし、自分の気持ちを伝えたり、泣いたり、笑ったり、支え合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族とのつながりを深めるために、家族会を開催したり、行事に参加してもらったりしている。また、面会時近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスなど、知り合いがおられる場にてかけて、楽しい一時が過ごせるようにするなどの工夫をしている。	行きつけの美容院等、利用者の希望があるときは、基本的には家族の方をお願いして連れて行ってもらっているが、無理な場合でも、希望に添えるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士と一緒に作業したり、くつろげる場の提供をしている。また、孤立しがちな方でも、職員が間に入ることで、関わりがもて、居場所が確保されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了の際も、どのような病院、施設などがあるのか、相談にのったり、様子伺いに出かけたり、家族の方からも当ホームに出向いてくださり、様子を知らせてくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の行動や言動などから、思いを探ったり、普段の会話の中からも、本人の思いなどを把握するように努めている。	言葉ノートを作成し、利用者から発せられて言葉、行動を記録し、ケアに役立てている。また日々、利用者の表情や言動で、思いを把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族などから生活歴を聞いたり、生家などを訪ねるなどしてこれまでの暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々利用者の言動に留意し、状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、よりよく暮らせるよう意見を出し合ったり、本人や家族の意向を反映し、介護計画を立てている。	家族の面会時には、できるだけ話をし、意見や要望を聞いている。また、必要があれば相談員を交えながら、現状に即した、そして意向に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子や状態等個別に記録すると共に申し送りや日誌を記録し報告、連絡、相談をしている。また、介護計画の見直しを月に1回している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で、本人、家族の思いを知り、反映できるよう皆で話し合い、すぐにサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑や保育所・公民館・スーパーへ出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慣れ親しんだかかりつけ医や家族の希望にて往診をされている方もおられる。医師との連携を大切にするため、受診メモでのやり取りを行っている。	受診メモを利用し、医師との連携を図っている。医師の往診がある場合は、直接話をお聞きし、適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師が居ないため急を要する時や、処置の対応が行えない場合、施設内の看護師へ相談している。場合によっては看護師が所見し処置していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと情報交換し、早期退院を進めたり職員が面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルに向けて家族の意向を尋ねたり、事業所で出来る事を伝え、方針を共有している。	職員間での話し合いを十分に持ちながら、ターミナルケアに向けた取り組みを開始している。できることとできないことを明確にし、家族の意向に沿える支援を目指している。	家族との話し合い、医師等関係機関との話し合い、そして何より職員への話し合いを十分に言いながら、体制づくりを整えてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、AEDの使い方など、定期的に講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害にそなえ、地域の自警団、消防署と、連携し、訓練を定期的に行っている。	夜の避難訓練を行い、実際にスモークをたくなどして、全職員が様々な場面に対応できるようにしている。また地域の自警団とも連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに留意している。一人ひとりの理解度に合わせた声かけをしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重しながらも、わかりやすく短い単語を使いながら言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢をもうけたり、表情や言動から本人の思いに添えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課などはなく、利用者さんのペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんが着たい服を選んで着たり、整髪などは、本人の出来る範囲でもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見ながら、献立を決めたりしている。料理、食事、片づけなども利用者と共にやっている。	一方的にお願いするのではなく、一緒に楽しみながら、料理の盛り付けや配膳、後片付けなどを、利用者と共にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は栄養士が行っている。食事が減ったり、水分にムセがある人などは個別の状態に合わせて食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センターシートを用いてその人の排泄パターンを把握している。気持ちよく排泄していただけるよう、なるべくトイレでの排泄をしていただいている。	利用者一人ひとりの排泄のリズムを把握し、できるだけトイレで排泄をしていただく支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないように運動や水分で調節しようと努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めてなく、利用者同士が楽しく入浴出来るように支援している。	利用者の希望に合った時間に入浴できる体制が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子や言動を観察し、休息を取ってもらったり、活動して夜間よく眠れるように関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬を把握し、変更があった際には確認・共有し理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センターシートで知り得た事を活用し、好きな事・得意な事を活かし日々の生活が充実したと思えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ふらりと出られる方には、そっと付添い思いのまま歩いてもらったり、行ってみたいところなどは普段から希望を聞き、出かけることもしている。(外食・実家等)	チラシ広告等を一緒に見て、行ってみたい、食べてみたいというところに外食に出かけたりしている。 意思表示の困難な方にも、生活暦等を見て、できるだけ本人の希望に添った外出支援ができるように努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員がお小遣いとして管理しているが、買物等では財布を持ってもらい支払いをしてもらっている人もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年々文字や手紙が書ける人が少なくなっているが、書ける人に対してはお礼状の代筆等してもらっている。また、家族からの電話等取り継ぎ話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事(七夕・鏡餅)を思わせる飾りで季節感をだしている。	共用の空間は、明るく清潔に保たれ、なじみの音楽をかけるなど、利用者が居心地よく暮らせるように配慮している。	壁や棚の装飾やお花など、もう少し季節感が感じられるような工夫をされることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いて、利用者同士が一緒に過ごせたり、ひとりで過ごしたい時は衝立で隠れられるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたタンスなどを使用してもらったり、写真を飾るなどしている。	使い慣れた家具や、布団を使用してもらい、自宅のように居心地よく暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく物を動かさず、慣れた環境にして分かりやすい配置で自立を促している。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3170100691		
法人名	社会福祉法人 あすなろ会		
事業所名	グループホーム高草あすなろ		
所在地	鳥取市大柄330		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町村受理日	平成23年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp">www.wam.go.jp</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取県鳥取市湖山町東2丁目164		
訪問調査日	平成23年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員が利用者の家族(本物にはなれないが、それに近い)になれるようケアにあたっている。(一緒に楽しんだり、悲しんだり)また、センターシートを活用しながら、利用者の方が、生き生きと生活できるように、職員一人ひとりが心がけながらケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者の方が常に明るく、朗らかで、全体の雰囲気がとても和やかなものとなっている。また、職員が順番に一週間の目標を立て、全員がその目標に向かって行動し、検証するという「ふり返りノート」を作り、よりよいサービスが提供できるような取り組みを自主的に行なっている。家族からの要望もある終末医療についても、関係機関と連携を図りながら、研修を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者さんが主役となるように目標(理念)に沿って、実践している。	理念は事務所に掲げてあり、職員全員が常に意識を持っている。理念に添った、利用者の立場に立った「黒子としてのサービス」に努め、家庭的な温かい雰囲気づくりを目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中に畑があり、その行き来や、散歩中などに、挨拶や会話をしている。	長年続けてきた地域の中での畑作りが定着し、近隣住民の方たちとの交流が増えてきている。地域の公民館祭へ参加したり、作品を出したりするなど、継続したつきあいをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や新聞、地域の方との交流により少しずつ理解してもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日頃の様子を分かりやすく写真を見ながら説明し、委員さんより、評価やアドバイスをいただいている。	運営推進会議の委員は、役職にこだわらず、ある程度の期間は継続してお願いしている。そのため、大変活発な会議を行うことができる。また、食事を交えての会議を開催するなど、話しやすくなる工夫もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通じて取り組みを報告してアドバイスをいただき、協力を得ている。また、必要に応じて、相談等持ちかけている。	運営推進会議に出席してもらい、情報の交換を行っている。また必要に応じて相談に乗ってもらうなどの協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が、身体拘束について理解している。また、勉強会を開いて再認識した。	日中の玄関の施錠はしていないので、利用者は自由に出入りしており、出て行くときは、さりげなく職員がついていくなどの支援を行っている。職員への研修も行い、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で、改めて学び理解を深めた。また、擦り傷や圧迫痕等から、ケアの在り方等検討した。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要があれば、アドバイスできるように勉強会をおこなった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約時は、時間をかけて家人に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族カンファレンス、面会時等、日頃から、意見や要望を聞き反映している。	アンケートを実施し、忌憚なく意見が言える環境を整えている。また面会時には積極的に話を聞くように努めたり、家族会を実施し、意見や要望等を直接聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、意見を聞きアドバイス等してくれる。	管理者は常に職員の様子に注意を払い、意見等を言いやすい環境を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の状況を把握している。また、面談もあり、じっくり意見をきいてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会が確保できている。また、質の向上に向けてアドバイスをしてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとネットワークの会や相互研修をおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の言動などから、必要な環境作り、関わりを行い、信頼関係作りをしている。時には何度か面会したり、ショートステイを利用してもらったこともあった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に自宅に訪問して、家族の要望や求めている事等を聞き、どのような対応にすべきか話あっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャーや他事業所の意見も参考にしながら検討する。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんと職員が家族のように一緒に暮らし、自分の気持ちを伝えたり、泣いたり、笑ったり、支え合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族とのつながりを深めるために、家族会を開催したり、行事に参加してもらったりしている。また、面会時近況報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	デイサービスなど、知り合いがおられる場にてかけて、楽しい一時が過ごせるようにするなどの工夫をしている。	行きつけの美容院等、利用者の希望があるときは、基本的には家族の方をお願いして連れて行ってもらっているが、無理な場合でも、希望に添えるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士と一緒に作業したり、くつろげる場の提供をしている。また、孤立しがちな方でも、職員が間に入ることで、関わりがもて、居場所が確保されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了の際も、どのような病院、施設などがあるのか、相談にのったり、様子伺いに出かけたり、家族の方からも当ホームに出向いてくださり、様子を知らせてくれる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の行動や言動などから、思いを探ったり、普段の会話の中からも、本人の思いなどを把握するように努めている。	言葉ノートを作成し、利用者から発せられて言葉、行動を記録し、ケアに役立てている。また日々、利用者の表情や言動で、思いを把握できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族などから生活歴を聞いたり、生家などを訪ねるなどしてこれまでの暮らしを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々利用者の言動に留意し、状態を把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、よりよく暮らせるよう意見を出し合ったり、本人や家族の意向を反映し、介護計画を立てている。	家族の面会時には、できるだけ話をし、意見や要望を聞いている。また、必要があれば相談員を交えながら、現状に即した、そして意向に沿った介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日々の様子や状態等個別に記録すると共に申し送りや日誌を記録し報告、連絡、相談をしている。また、介護計画の見直しを月に1回している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々で生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々で、本人、家族の思いを知り、反映できるよう皆で話し合い、すぐにサービスを提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	畑や保育所・公民館・スーパーへ出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慣れ親しんだかかりつけ医や家族の希望にて往診をされている方もおられる。医師との連携を大切にするため、受診メモでのやり取りを行っている。	受診メモを利用し、医師との連携を図っている。医師の往診がある場合は、直接話をお聞きし、適切な医療を受けられる支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師が居ないため急を要する時や、処置の対応が行えない場合、施設内の看護師へ相談している。場合によっては看護師が所見し処置していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のソーシャルワーカーと情報交換し、早期退院を進めたり職員が面会に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化やターミナルに向けて家族の意向を尋ねたり、事業所で出来る事を伝え、方針を共有している。	職員間での話し合いを十分に持ちながら、ターミナルケアに向けた取り組みを開始している。できることとできないことを明確にし、家族の意向に沿える支援を目指している。	家族との話し合い、医師等関係機関との話し合い、そして何より職員への話し合いを十分に言いながら、体制づくりを整えてほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、AEDの使い方など、定期的に講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害にそなえ、地域の自警団、消防署と、連携し、訓練を定期的に行っている。	夜の避難訓練を行い、実際にスモークをたくなどして、全職員が様々な場面に対応できるようにしている。また地域の自警団とも連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけに留意している。一人ひとりの理解度に合わせた声かけをしている。	利用者一人ひとりの人格を尊重しながらも、わかりやすく短い単語を使いながら言葉かけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢をもうけたり、表情や言動から本人の思いに添えるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課などはなく、利用者さんのペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者さんが着たい服を選んで着たり、整髪などは、本人の出来る範囲でもらえるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を見ながら、献立を決めたりしている。料理、食事、片づけなども利用者と共にやっている。	一方的にお願いするのではなく、一緒に楽しみながら、料理の盛り付けや配膳、後片付けなどを、利用者と共にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理は栄養士が行っている。食事が減ったり、水分にムセがある人などは個別の状態に合わせて食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じた口腔ケアを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	センターシートを用いてその人の排泄パターンを把握している。気持ちよく排泄していただけるよう、なるべくトイレでの排泄をしていただいている。	利用者一人ひとりの排泄のリズムを把握し、できるだけトイレで排泄をしていただく支援を行なっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らないように運動や水分で調節しようと努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めてなく、利用者同士が楽しく入浴出来るように支援している。	利用者の希望に合った時間に入浴できる体制が整っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の様子や言動を観察し、休息を取ってもらったり、活動して夜間よく眠れるように関わっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の薬を把握し、変更があった際には確認・共有し理解するように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センターシートで知り得た事を活用し、好きな事・得意な事を活かし日々の生活が充実したと思えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ふらりと出られる方には、そっと付添い思いのまま歩いてもらったり、行ってみたいところなどは普段から希望を聞き、出かけることもしている。(外食・実家等)	チラシ広告等を一緒に見て、行ってみたい、食べてみたいというところに外食に出かけたりしている。 意思表示の困難な方にも、生活暦等を見て、できるだけ本人の希望に添った外出支援ができるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員がお小遣いとして管理しているが、買物等では財布を持ってもらい支払いをしてもらっている人もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年々文字や手紙が書ける人が少なくなっているが、書ける人に対してはお礼状の代筆等してもらっている。また、家族からの電話等取り継ぎ話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や行事(七夕・鏡餅)を思わせる飾りで季節感をだしている。	共用の空間は、明るく清潔に保たれ、なじみの音楽をかけるなど、利用者が居心地よく暮らせるように配慮している。	壁や棚の装飾やお花など、もう少し季節感が感じられるような工夫をされることを期待する。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にソファを置いて、利用者同士が一緒に過ごせたり、ひとりで過ごしたい時は衝立で隠れられるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていたタンスなどを使用してもらったり、写真を飾るなどしている。	使い慣れた家具や、布団を使用してもらい、自宅のように居心地よく暮らせるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく物を動かさず、慣れた環境にして分かりやすい配置で自立を促している。		